

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇越谷イオンレイクタウン Act Green ECO WEEK 2019 に参加

## ■随想

◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記（6）－交通－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

## ■編集後記

## ■トピックス

## ◇越谷イオンレイクタウン Act Green ECO WEEK 2019 に参加

国内最大級のショッピングセンターの越谷イオンレイクタウンを舞台に、毎年恒例となっている参加型環境イベント「Act Green ECO WEEK 2019\*（第12回）」が10月19日（土）～20日（日）開催され、VECは4年連続参加しました。

Act Green ECO WEEKは2008年から毎年開催され、企業・行政・市民・来訪者が一体となりエコライフを志向する環境イベントであることが特徴で、毎年30以上の行政・企業・団体が参加しています。今年のテーマは、「今日からはじめる、Myエコアクション」。日々変わりゆく地球環境を様々な視点から伝え、身近なことからエコを学び考える機会とすることで一人ひとりの日常生活における「一歩先のエコアクション」作りを提案することを目指しました。



VECブース付近  
(mori エリア水の広場)



VECブース

最近海洋プラスチックごみ問題が地球規模で課題になっていることから、プラスチックの上手な使い方やリサイクルなど資源の有効活用に周囲の関心が高まっています。このような状況から、VECブースでは、身近な暮らしに広く利用されている塩ビ製品（塩ビパイプ、樹脂窓、ホース、食品サンプル、ラップ、床材、壁紙等）の展示、並びにマンションにおける樹脂窓による断熱効果を検証した結果の説明や、塩ビパイプのリサイクル性能など環境負荷低減に貢献している事例をパネルで紹介しました。たくさんの方が足を止めて、いろいろな塩ビ製品に触れて実感してみたり、パネルの内容について質問を多くいただきました。特に、道路標識で見たことのある横断幕（ターポリン）をリユースしたバッグなどに関心が高いことが印象的でした。

また、塩ビが持っている耐久性、長持ち、リサイクル性能など優れた特徴を伝えるために、今回はテントシートの端材を再利用してストラップ作りのワークショップを行いました。作り方は、テント工場で余ったシート生地の手元をいただき、それを長さ 90cm くらいで 15mm 幅の紐（ネックストラップ用）に裁断してから、ブースに持ち込んできて紐にナスカンという金具を取り付けてストラップの準備をしました。そして、塩ビがエコな素材であることを知っていただくため、塩ビの特長をイラスト化して説明した名刺大のカードを軟質塩ビケースに入れてストラップとセットにして来場者に手渡ししました。また、塩ビは着色性に優れた特性を有していることをみってもらうため、白、赤、青、緑、黄、銀色など様々な色のストラップを用意して、その中から好きな色を一つ選んでいただきました。子供たちにはハート型や星型の形に切り抜いたテントシート生地の手元（チャーム）に文字や絵を描いて、オリジナルストラップ作りを楽しんでもらいました。

テントシートは丈夫なポリエステル繊維と防水性や難燃性などの機能がある塩ビの表層で構成されていることから、繰り返し使用することができ、使用後にはバッグなどに再利用することもできます。また、塩ビは着色性や印刷性にも優れていることから暮らしに豊かさを添えることができます。今回は工場手元を利用して塩ビのリサイクル（リユース）を体験してみようというコンセプトでワークショップを行いました。塩ビ製品がエコ素材であることを来場の方々が少しでも記憶に残るような発信になったことを祈っています。



PVC クラフトの様子

2 日間とも好天に恵まれ、VEC ブースには総勢約 2,000 名の方々に来場いただき、盛況のうちに無事終えることができました。

今回のワークショップ・ストラップ作りに関しては、制作企画に貴重なご助言とご指導をいただいた日本テントシート工業組合連合会、並びにテントシート生地の手元提供や裁断加工等に多大なご協力をいただいた大一帆布（株）、石川（株）、（株）太陽テントの方々に深く感謝の意を表します。

- ※ 主催：Act Green ECO WEEK 実行委員会（埼玉県、越谷市、越谷市環境推進市民会議、越谷市環境協会、イオンレイクタウン mori・kaze・Lake Town OUTLET、積水ハウス（株）
- 協力：トヨタ自動車大学校
- 後援：環境省関東地方環境事務所
- 参加団体・企業：埼玉県環境部大気環境課、埼玉県環境部エネルギー環境課、越谷市環境政策課、東埼

玉資源環境組合計画課、越谷市公園緑地課、越谷市リサイクルプラザ、埼玉県みどり自然課、JA 越谷市、埼玉県環境科学国際センター、NPO 法人環境ネットワーク埼玉、東埼玉地域地球温暖化対策協議会、(一社)越谷市環境協会、積水ハウス(株)、東京商工会議所、イオン(株)、イオントップバリュー(株)、日本EVクラブ、塩ビ工業・環境協会

## ■ 随想

### ◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記(6) -交通-

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

交通ルールが徹底されるより早くモータリゼーションになったヨルダン・ハシミテ王国。日本の感覚では考えられない運転をしています。

一番気になるのは車線。

ヨルダン・ハシミテ王国でも2車線、3車線の道路があり、道路にはきちんと車線が白いペイントで示されています。日本ではその車線の間を走りますが、何故かこちらの運転手さんは車線の上を跨って走ります。

運転手さんに聞くと、たった一言、「分かりやすくっていいじゃん」。

たまに、ちゃんと車線を守って走行している車両があると(ほとんどが外国人の運転)、クラクションの嵐になります。

二番目に気になるのがウインカー。

こちらの人はウインカーをしませんね。

車線変更、右左折、合流などの時に利用するのはウインカーではなくクラクション。

クラクションを鳴らしながら車線変更、右左折、合流をするのがこちら流。

街中のロータリーなどは、一日中クラクションの音が鳴り響いています。

次に気になるのは運転の荒さというか、スピード違反。

事故も多いため、交通警察は幹線道路のあちこちでレーダーを使った速度取り締まりを行っています。

また、街中には、あちらこちらに速度が出せないようにするため、道路が盛り上がった部分があります。それでも、直前に気が付いて急ブレーキをかけて速度を落とす人、気が付かず、そのまま道路の盛り上がりにつつまみ、派手にジャンプする人が多数います。

駐車違反も当たり前。街中だけでなく、高速道路上でも平気で駐車するだけでなく、路肩で果物などの販売をしている人もいます。販売しているということは、お客さんも高速道路上で車を止めて買いに来ています。

交通警察も頻繁に取り締まりをしているようですが、駐車違反の数に取り締まりが追い付いていないようです。

ちなみに、駐車違反、日本では運転手が乗っており、すぐに移動できる状態であれば、よほど危険な場所でない限り駐車違反とはなりません。こちらでは、駐車禁止場所に止めたら即、駐車違反の切符を切りに来ます。

駐車面白いのは、駐車禁止場所は道路上だけ。



駐車禁止場所に車を乗り付け、すぐに歩道の上に車を乗り上げると駐車禁止にはならないそうです。このため、そのような場所ではみんな歩道上に車を駐車させるため、歩道を歩くことが出来なくなります (>\_<)

整備不良の車も多いです。

日本では走行中に車両が動かなくなり、路上に止まってしまった、あるいは路肩で修理をしている車はほとんど見かけなくなりましたが、こちらでは当たり前。バスでさえ途中で動かなくなり、後から来るバスに乗り換えるのは普通です。

修理や整備もかなりいい加減。専門知識もなく、経験で動けばいいやという修理方法なので、修理しているのを見ているとこちらがハラハラ。

「そこ、オイルを塗るところではないでしょう」「そんなボルトの締め付け方では、走行中にホイールが外れちゃうよ」と思わず口と手を出したくなります。

交通手段として一般的なのがバス。

日本では決められた区間、決められた場所（バス停）でしか乗り降りできませんが、ヨルダン・ハシミテ王国のバスは違います。

行先表示（アラビア語のみ）を見て、自分が行きたい方向だと思ったら、手を挙げればすぐに止まって乗せてくれます。

降りるときも、「ここで降ろして」と運転手に言えば、好きなところで降ろしてくれます。もちろん、高速道路上でも「ここで降ろして」と言えば、降ろしてくれます。

通勤客が多く利用するバスでは、お客さんと運転手さんは顔見知り。

時間になってもバスが発車しないのでどうしたのかと聞いたら、「いつも乗るお客さんがまだ来ないので待っている」。

バスの運転手さんもお気軽に、途中でバスを止めて居なくなったなと思ったら、パンとジュースを買ってきて、飲み食いしながら運転。

もちろん、運転しながらタバコは吸い放題（知り合いのお客さんが、1本どおと勧めているし）。運転しながらスマホで通話やメールとやりたい放題。

ちゃんと前を見て運転しようよ (-\_-;

運転中に何をメールしているのと聞いたら「知り合いのお客さんから“乗り遅れそうだから待ってて”というメールが来たから、“待ってるよ”と返事をした」。

メールの画面を見たら、しっかり、顔マーク付きのメールのやり取りでした。

このバス、いつになったら目的地に着くのかなあ。

(続く)

次回は、(7) ー国旗ーです。

⇒ [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

丁度 13 年前、塩ビと環境のメールマガジン No.102 (2006 年 11 月 2 日発行) の随想に若林さんによる旅行記「エチオピア奇談」がスタートしました。その後アフリカ大陸を中心にエリトリア、ナミビア、ルワンダ、チュニジア、リビア、マリ、ブルキナファソ、ベナン、モザンビーク、マラウイ、レソト、そして中東のレバノン、現在ヨルダン・ハシミテ王国と続いています。臨場感があって、その土地ならではの風土・文化などエピソードを交えていつも楽しく読ませていただいています。若林さんは、この 10 月末日を以て日本化学工業協会を退職されます。随想は引き続き寄稿いただくことになっています。若林さんに感謝の意を表しますと共に、今後の益々のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

(塩ビ工業・環境協会)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---